

彼岸花を手に戦争法廃止訴えるレイドアクション



ドアクションが行われました。

私は、赤い上着もズボンもなかったので赤い手ぬぐいをあねさかぶりして参加してきました。事務局の方が用意してくださったのでしようか、いま花時を迎えている彼岸花を大量に持ってこれられ、ポスターや看板などだけでなく、これらの花も手に持ったのアップीलとなりました。驚いたのは、隣りに立っていた女性に「橋爪君！」と呼ばれたことです。

国会閉
会後も全
国各地で
戦争法
(安全保
障) 廃止
法) 廃止
を訴える
取組が
いていま
す。9月
29日午
前、上越
大通り市
役所入り
口交差点
でもレッ

この女性は何と、高校時代の同級生でした。この5日、午前7時半から浦川原物産館近くの国道253号線沿いでもポスターなどを持ってスタンディング(立って訴える)をする予定です。

県内病院のベッド数、10年後には2割減ねらう

昨年6月に成立した医療・介護総合法によって、新潟県内の病院ベッド数が10年後には2割以上も減らされようとしています。左上のグラフをご覧ください。一昨年現在で2万3000床あったものを2025年(平成37年)には1万8100床にしようというのですから、ひどすぎます。ベッド数を減らせば医療費を削減できるという姑息な考え方に基づくものです。

病院に入れない人については、介護施設に入ってもらいか自宅医療を充実するというのですが、いまでさえ、介護施設は低賃金、過重労働などで離職者がどんどん出ています。こうしたなかで病院ベッド削減など「絵に描いた餅」と言わざるをえません。

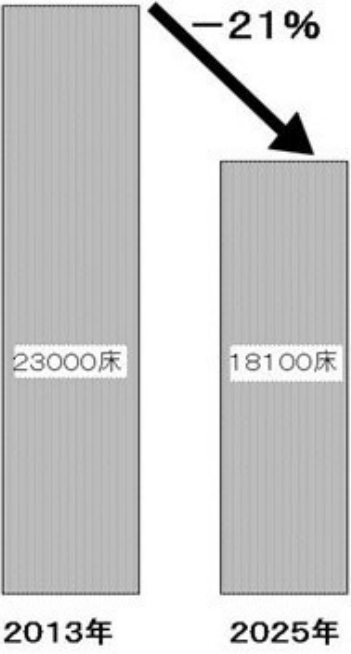
日本共産党では住民の命と健康を守る立場から、この問題を県議会や市町村議会で取り上げていくことにしています。

「まちゼミ」、今回も好評です

吉川商工会主催の「まちゼミ」(吉川まちのゼミナール)が話題になっています。今回は3回目になります。1日から始まり、今月末まで行われます。

「身につける服の色ひとつで顔がきれいに見える」「スカート1枚で素敵におしゃれを楽しむには」「車の小さなキズを修理するコ

新潟県内の病院ベッド数



見事な朝顔が庭いっぱい咲いている家があります。大島区細越のTさんの家です。あまりの美しさに私も車を止めて、何度も写真を撮らせてもらっています。写真は9月24日撮影しました。

第3回 お店の人が教えてくれる! 知って得する! 受講者募集! 保存版
まちゼミ 全21講座
 2015年10月1日(木)~31日(日)

お店の人が講師となって、専門店ならではの専門知識や情報、コツを無料で教えてもらえる。まちなかせミナール、そして「まちゼミ」です

受付開始 9/19(土)
 受講料無料 ※内容によっては材料費がかかるものもあります。
 申込は各店へ 「まちゼミの申込です」とお電話ください。 ※定員になり次第締め切らせていただきます。

「忙しい時の洗車の仕方は」「簡単なで、楽しくて、役に立ちます。あなたも参加してみませんか。まちゼミ(写真はこちら)は、案内のビラです」



【白いツリフネソウ】まさかと思いました。道路脇にあった紫色のツリフネソウに混じって白色のツリフネソウが咲いていたのですから。何十年もこの花を見てきましたが、白色は初めてでした。24日、撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.1726 2015.10.4

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見
 である記」は
 ←こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三七四回 花いっぱいにして

「車を走らせているとね、そこんちの花が正面にどーんとあるんだわ」そういってサダ子さんの家を紹介してくれたのはY子さんでした。ところが、そのどーんとある花がなかなか見つからなかったのです。

やっとサダ子さんの家を探しあてて、玄関先に行くと、エプロンの中にナスを入れたサダ子さんが近くの畑から戻ってきたところでした。「橋爪です」と声をかけると、「まあ、いつもあれ、見させてもらっています」とニコニコ顔です。

ベランダから下がった花のことを尋ねると、サダ子さんは「この間の大雨でやられちゃいました。枯れて、けっこうえなもんになっちゃった。花が咲くと下まで下がって咲くんだけど、あんまり、あれだすけ、ちよんぎっちゃったがです」と、笑って答えました。なるほど、これなら、サダ子さんの家を見つかるのに時間がかかるわけです。

二階のベランダにどーんと咲いているはずだった花の名はサフィニアというのだそうです。ナス科の植物で、ペチュニアの園芸種とか。雨には弱いものの、雨よけのついたところでは、地をほうのように茎がどんどん伸びてたくさんの花を咲かせます。色は何種類もあるようですが、サダ子さんのところはピンク色でした。

サフィニアの花を二階から一階にかけて滝のように咲かせるために、これまでサダ子さんは苦労を重ねてきました。年齢はすでに八〇歳です。プランターはヒモでしばって二階で引っ張り上げています。プランターに入れる土はいくつにも分けて二階まで運びました。水くれもペットボトルに入れて、ベランダのところまで持って行くのだそうです。花をきれいに咲かせるというのはいへんなことなんですね。

サダ子さんから家の周りを案内してもらってびっくりしました。たいがいの家では、近くに野菜畑がありますが、この家では周りが野菜畑というよりも、ほとんど花畑なのです。もともと、いま咲いているのは百日草、サルビア、メランポジウム、ニチニチソウなど一部だけになってしまいましたが……。花が咲いていないところも、来年春の開花を楽しみにして、芝桜などが植えられています。

サダ子さんが、花に力を入れるようになったのは、いまから四〇年ほど前からです。子どもさんたちが家を離れて高校へ進学した結果、家の中は火が消えたようになりました。お婆ちゃん泣いてさみしがりました。サダ子さんはそういう姿を見て花を植えて明るくしようと思いついたのです。

そしてもうひとつ、転機となったのは二十数年前、ヨーロッパで見た美しい花の風景です。サダ子さんの心を大きく揺さぶりました。旧大島村では、当時、ふるさと創生事業を活用して「村をどうしたらいいか」という作文を募集、優秀者にヨーロッパ旅行をプレゼントすることにしました。サダ子さんは当時の区長さんにすすめられ書いたところ、優秀と認められ、女性の代表としてヨーロッパ一〇日間の旅へ出かけることになったのです。サダ子さんはそこで見た花いっぱい風の風景が忘れられず、翌年から、花をいっぱい咲かせることに執念を燃やし続けてきたのです。

いま、サダ子さんは楽しみにしていることがひとつあります。息子さんの退職です。現在、浦安市で仕事をしている息子さんは数年後には定年退職となります。退職後は実家に戻ってきてくれるかも知れない、少なくともこれまでよりも帰省する回数は増えるはず、そのときには花をいっぱい咲かせて迎えてあげたい、そう思っているのです。サダ子さんの花づくりはますます力が入ってきました。

30数年ぶりにバインダーで稲刈り

9月27日は朝7時過ぎに家を出発、大島区上達に向かいました。生産組合のフェイスブックにはバインダーも使って稲刈りする、飛び入り歓迎とありました。あそこなら、バイン

ダーは湿田用のヤンマーのバインダーを使っているに違いない、ならば、もう一度運転してみたい、そう思ったのです。



感は当たりました。どんびしゃ、だったのです。バインダーにつかまったおかげで30数年前、父や母と一緒に螢場（吉川区尾神地内）の山の狭い田んぼで稲刈りした時のことがよみがえりました。

生産組合では親子で稲刈りに参加している人が何組かありました。地域の人と一緒にあって、しかも親子も一緒がいいもんですね。田んぼ脇の杉の木にはミヤマツの実が実っていましたし、ミンミンゼミの鳴き声も聞こえました。貴重な体験をさせてもらいました。上達のみなさん、ありがとうございました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	9月23日(水)	9月30日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.047	0.053
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.033	0.043
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.053

戦争法強行を叱る

戦争法（安全保障関連法）が強行されて、中央3丁目にある真宗大谷派寺院、聴信寺の掲示板は書き換えられました。

「平和のための戦争」の準備を始めた日本、どこへ向かうのか。戦争法の本質をとらえた見事なコメント、アピール文です。

